



アイアンマン ワールドチャンピオンシップを めざして

私は小学生の頃から競泳選手で、国体・インカレなどに出場していた。現役を引退した後は、マスターズ水泳に出場し、個人でランキング全国10位以内、リレーでは全国トップになるなど、それなりの実績を残していたが、長年続けてきた競泳には、いささか情熱を失いかけていた。

そのようなことで、徐々にプールから足が遠のいてしまった。しかし、根っからの運動好きで「何かやらなければいけない」と思っていた私が、トライアスロンの道に入っていくことは、ある意味自然な流れでもあった。というのも、中学時代は、競泳の選手生活のかたわら陸上競技の試合にも出場していたし、大学時代は、マウンテンバイクで山を走り回っていたからである。すなわち、偶然にも、「水泳」「自転車」「長距離走」というトライアスロンの3種目に親しんでいたのである。

思い立ったが吉日。ほとんど勢いで申し込んだ大会で好成績をあげることができ、一気にのめりこんだ。3年後には日本選手権（総距離51.5kmで、一般にショートといわれる）に出場するまでになった。

その後も連続して日本選手権に出場していたが、2001年の大会で不本意な成績に終わったとき、「もうスピード勝負では若い選手にかなわない」と実感し、翌年からはアイアンマン（水泳3.8km、自転車180.2km、ランニング42.2kmを続けて行なう）に転向することを決意した。アイアンマンは世界中で22戦開催され、各レースの上位者が、ハワイ島コナで10月に開催されるアイアンマンワールドチャンピオンシップ（通称・アイアンマンハワイ）



会員

湯尻 淳也<48期>

に出場できる。コナは「トライアスロンの聖地」と呼ばれ、そこでレースをすることは、全トライアスリートの憧れである。

日本では、例年5月に（今年は6月17日）、五島列島でアイアンマンジャパンが開催されている。アイアンマンのデビュー戦の2002年大会、未体験の距離ながら、ハワイの出場権を獲得できた。しかし、この年は家庭の事情によりやむなくキャンセルし、ハワイへの夢は2003年へと持ち越された。そして、十分な準備をして臨んだ2003年大会で、再度ハワイの出場権を獲得できた。待ちに待った10月の初ハワイ。自転車の途中で脱水症状になり、体中が痙攣する最悪の状況に陥り、リタイヤも頭をよぎったが、ここでリタイヤしては今までの努力が無駄になるとの思いで奮起。なんとか完走した。このときの素晴らしい体験により、その後は、それまで以上にトレーニング中心の生活を送るようになった（一応!? 弁護士業もやっているが…）。

以後、2004年は故障により棒に振ったが、2005年、2006年と連続してハワイに出場し、成績も右肩上がりである。そして、この記事が掲載される頃には、6月17日の大会に向けての最後の鍛錬期に入っている。今年も納得のいくレースでコナに帰っていけるよう頑張りたい。

★日々の練習風景を書いたブログ
Junya's Triathlog - Road to Kona
<http://blog.goo.ne.jp/jyujiri/>